

# 教主様大國神社日参謹行

## 壱千日御聖行成満



全山巡拝行修了弥栄祈念（御本宮大廣前）

五月に入る。連休中は御山も家族連れ等、大勢の方々がお参りされた。朔日の月始祈願祭後、ご本殿にて新規責任役員の任命奉告式を執行す。代表役員代務者として平松総長を、責任役員として畠山真由美、品川弓、熊川知長、保積歩を任命す。以前は、十一名の責任役員であつたが、五人に規則を変更させて頂いた。運営の円滑化を図るべくの変更ではある。

お天気も恵まれ素晴らしい修行となつたようだ。私は二日目の謹行に併せて結行が続いた。二十二日、二十三日には祓禊大行が行修された。お天気も晴らしく、運営の執行が順調に進んでいた。お天気もまた、心の高揚を覚ゆる日が続いている。

そして、二十六日、九十九日目、

壱千日参謹行結願の火祭祈祷を執

行させて頂いた。四万八千百願の奉

行とはなつた。有り難き信奉者の皆

のところを賜つた。一祈願として

漏れ落ちることのなきよう、熱き

心にて心願諸願成就を祈念申し上げ

た。火水（ひみず）の稜威を、火炉

より立昇りし御神火に蒙られての火

事である。北朝鮮による拉致被害

者、幼き子供等の生命を虐待より救

濟し、高齢者を詐欺被害や犯罪から

守らんとして、更には新型コロナウ

イルス感染禍の鎮静終息を願い続け

ての今日であった。いまだ道険しく

遅きものではあるが、必ずや早晚解

決されると信念し祈り続けるもので

# 大和の光

6月号

## 《発行所》

大和教団  
仙台市青葉区錦町2-4-24  
大和教団本庁  
電話 (022) 261-2525番  
振替 仙台 02220-3-45512  
発行人 大和教団 定価50円



神紋  
八咫鏡と太陽を  
かたどったもの  
で、國家の隆昌  
と世界の共生共  
栄を意味してお  
ります。

## 大和の言霊

ただ一つ

心をつくること、  
それが信仰である。

(大和神典 第二之〇三五言)

五月に入る。連休中は御山も家族連れ等、大勢の方々がお参りされた。朔日の月始祈願祭後、ご本殿にて新規責任役員の任命奉告式を執行す。代表役員代務者として平松総長を、責任役員として畠山真由美、品川弓、熊川知長、保積歩を任命す。以前は、十一名の責任役員であつたが、五人に規則を変更させて頂いた。運営の円滑化を図るべくの変更ではある。

お天気も恵まれ素晴らしい修行となつたようだ。私は二日目の謹行に併せて結行が続いた。二十二日、二十三日には祓禊大行が行修された。お天気もまた、心の高揚を覚ゆる日が続いている。

そして、二十六日、九十九日目、

壱千日参謹行結願の火祭祈祷を執

行させて頂いた。四万八千百願の奉

行とはなつた。有り難き信奉者の皆

のところを賜つた。一祈願として

漏れ落ちることのなきよう、熱き

心にて心願諸願成就を祈念申し上げ

た。火水（ひみず）の稜威を、火炉

より立昇りし御神火に蒙られての火

事である。北朝鮮による拉致被害

者、幼き子供等の生命を虐待より救

濟し、高齢者を詐欺被害や犯罪から

守らんとして、更には新型コロナウ

イルス感染禍の鎮静終息を願い続け

ての今日であった。いまだ道険しく

遅きものではあるが、必ずや早晚解

決されると信念し祈り続けるもので

ある。

皆既月食の夜空を眺め、翌朝未明

より鎮魂をなし御山へと向う。曇り

空ではあるが巡拝には相応しい天候

を挙げ奉つた。大鳥居前に参行者は

列立。先立ちて記念集合写真を撮る。

五時四十五分、修祓にて祓い清め

られ先導の大発声の下、御本宮に向

いて参進す。称言の奉唱が大市神山

に木靈し響ひ。実際に心地よい神氣感

じる。街並が懐かしく感じられる。一



そうでなければなりません。大和の教主は、  
てるしかありません。自分の都合  
分の都合なんてどこにもありません。  
開祖様がそうであつた様に、私も神  
様の都合で生きるしかないのです。  
人の都合ではありません。神様の都  
合で私は生きる。それが私の二代目  
としての道なのです。覺悟をすると  
様々と楽になります。今日も明日も  
この生命は神様の生命ですから、有  
難く使わせて頂きます。どんなこと  
が有つても、どんなに苦しくともな  
のです。必ず道は開きます。そう決  
まつていいのです。努力すれば神様  
は必ず手を伸べて下されます。努力  
が足りなければ挫折するだけです。  
事が運べない者は、神様が満足して  
いないというその証です。ただそれ  
だけのことです。全て自分の心次第  
です。人のせいではありません。今  
その覺悟をして、こうして歩んでい  
るわけです。大きな世界がもう間も  
なく顕現致します。私はそれを感じ  
ております。どうぞ教師の皆も信者  
さんの皆も、今が苦しくても必ず神  
の光は輝きます。世の中がどれだけ  
乱れても生きのびる力を神々は授け



結びのご教座・日々の教座にて10,409名の方々が生きる力を授かった(R3.5.27)



教主様を裏中に全山巡拝奉謝行參行者(R35.27)

明日は神光殿を壱千日ぶりにお参り致します。五時半位から一社一社綾瓊奉称にて感謝を申し上げて、新たな出発、更なる飛躍を神様にお誓い致します。良いお仕えをさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。

て下されます。そのための大和の信仰です。どんなに世の中が変わろうとも私たちには関係ありません。ひたすら祈りと感謝の心をお仕えする、その姿を日々精進すれば禍は消えます。物事は成る。絶対成るのです。それが大和の信仰です。どうぞこれからも何事あっても“上を向いて前に進め”という開祖様の御心をお守りにして頂きたいのです。上を向いて前に進む。簡単なようですが、大きな信念を持たなければ進めません。教師の人等もまだまだ弱い。本当に弱い。これから鍛えていきたいと思つてゐます。

五月二十八日午前四時四十五分、教主様は壱千日ぶりに錦町の大和教団本庁・大和神光殿へと参られ、境内の施設を巡回なされた。五時四十分より奉拝綾瓊奉称神行が執行され、本庁の神々、保積家御先祖を奉拝なされ、御神名四十柱程の綾瓊奉称が行修された。

引き続き、一階拝殿にて、壱千日謹行成満奉謝が祈念され、教主様より、「祈りと感謝」と奉仕の正しい理解をもつて、正しい祈りをしていけば自らも神身になります。神身になるから、災いなどが起こるはずは有りません。神拝詞の中にそれが説かれております。全ての神理が全ての幸



### 奉拝綾瓊奉称神行を始行される教主様 (R3.5.28)

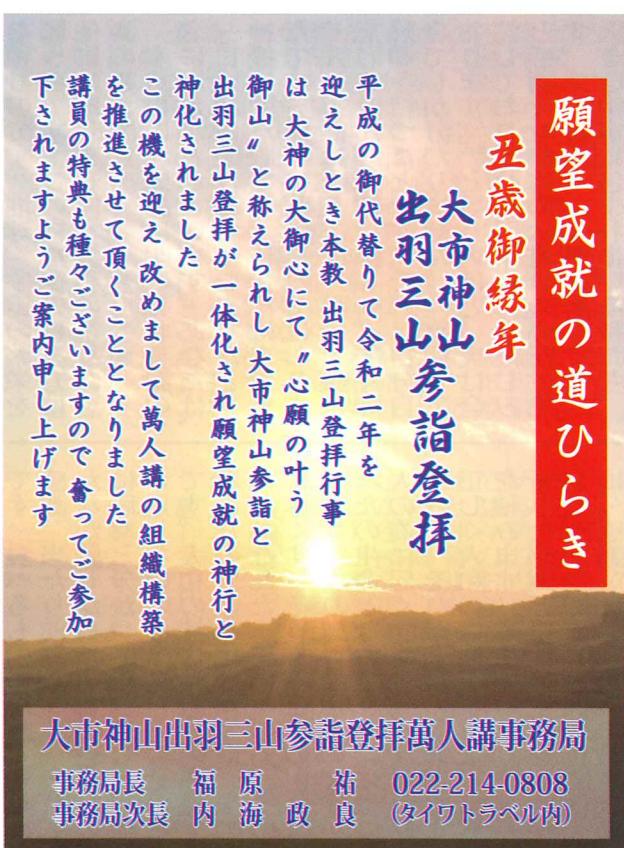
福になるのです。その教えが紐解かれて、祈りなさい。万物一切を生かすのは大変な事です。でも必ず出来ます。自分を生かせば人も生かせます。神拝詞というものは私たちの生命の教典です。それを自ら学びなさい。自ら学ぶのです。次第に何を説いているのか分かつて参ります。人から授けられるものではありません。種

大和教団本庁本部  
奉拝綾瓊奉称神行



神光龍神お籠松を奉拝 (R3.5.28)

正殿奉拝神行を執行される教主様(R3.5.28)



日旬祭参列者  
日供祭教座出席者  
一〇、四〇九名

7月行事予定表	
7月1日	月始祈願祭
7月5日	神光龍神祭
7月11日	親神感謝祭・祖靈万靈祭
7月15日	三山登拝道中安全祈願祭 三山役員会
7月19日	月次祭・神子祈願祭
7月24日	大和地藏慰靈祭
7月25日	三山登拝出立
7月28日	開祖祭
7月31日	六根修養会 三山登拝出立
8月1日	月始祈願祭 三山登拝出立
8月5日	神光龍神祭
8月7日	七夕祭
8月11日	親神感謝祭・祖靈万靈祭 出羽三山下山感謝奉告祭
8月13日	お盆花懸露祭 日蓮宗関縁特別淨靈安鎮祭 祖靈祭例年祭
8月15日	月次祭・神子祈願祭
8月25日	大和地藏慰靈祭 幽顯祓禊祈願行
8月28日	開祖祭
8月29日	六根修養会 理事会・後期総合役員会 教主様特別講演会

教三相電二日御里行の事成源り恩讃由し一いよ

# 大和三位体靈性統魂祓禊大神行

五月二十二、二十三の両日に亘り大和教団三大行始行である三位体靈性統魂祓禊大行が行修された。本年も新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み大市神山大國神社にて、感染対策を万全とした上での修行となつた。

初日の午前八時に祈禱殿へ参集、参行者は行程説明を受けた後、参行始奉告祭が執り行われた。

記念撮影を行い、畠山真由美教師先達のもと、第一座御祖之靈神祓禊が修められた。本行は参行者の先祖代々、御祖之靈神等をお迎え申し上げ、ともに参行なし、御靈淨化を図るものである。約一時間半の間、参行者は大祓詞七編を只管に奉唱し、日頃の罪穢れを祓い淨めた。

昼食を頂き、第二座前世之靈神祓禊は品川弓教師が先達となり厳修された。それぞれ参行者の前世とともに大祓詞七編を奉唱、祓禊をなした。引き続き、大和の教儀、神拝作法、



参行者の皆さんによる記念撮影

きな掛け声とともに、それぞれの天  
の鳥船行事を修した。

続いて、第三座吾御魂之祓禊が  
熊川知長教師先達にて行修された。  
本行では大祓詞七編を只管に唱え、  
自身の御靈が淨められた。

第三座行修の後、御本殿へと移  
り、教主様の壱千日謹行第九百九  
十六日目に参行申し上げた。御本  
殿では特別祈祷を執行、祖靈殿に  
おいては特別淨靈神事が執り行わ  
れ、祭儀後の教座会においてはご  
親教を賜り、修行の尊さを学ばせ  
て頂いた。

朝食を頂き、第四座結びの行と  
なる御明神事、小麻御清神事が田  
中教師先達にて執行、結びの修了  
奉告祭が畠山真由美教師によつて  
斎行され、参行者にはそれぞれ参



二日目の朝、教主様よりご親教を賜る参行者

大和の信奉者は  
五人善導の奉謝行を  
誓願致します

三界の調和を畠山眞由美教師と品川弓教師が講義す。参行者は基本的な大和神拝作法、真義、大和教学の深淵を学び、特に三界の調和という神界、現界、靈界の事について、本教団の善導救済の根本を学んだ。

次に田中道敏教師により鳥船神事の習礼が行われ、境内清掃奉仕を行つた。この後、夕食を頂き、初日は修められた。

翌二日目は、午前三時四十五分に祈祷殿に集合、田中教師により鳥船神事が執行された。参行者は皆、大

教主様御親教  
祓禊大行第二日目

行証が授けられた。  
行修の後、境内清掃奉仕を修め、  
その後の直会においては、感謝の体  
感談をそれぞれが語り合い、信仰を  
深めた一日間は散会となつた。

三界の調和の信仰として、この世を争いのない和の国に昂め”とあります。私たち大和は調和です。帰神詞にも調和と記されております。全ての教えというものはつながっております。誓詞で“私たちは神の子の本義（みち）を自覚し”とあります。心身の行程を是に追随せしめ“心も体も神様の教え、道に追つて従う。分からなければ従えません。本義とは何か。私たちの教えは天理天則、大宇宙の法則なのです。本義とは大元の御靈につながつております。生命の始まり、それが本義なのです。私たちにはその生命の靈が連綿とつながつております。神々を通しながら、身近な父母まで受け継いでおります。私が大和の信仰生活とは何ですかと聞きますと、「祈りと感謝と奉仕の生活を実践することです。」と、皆さんは答えます。本当に実践しているのでしょうか。悟れないままに、ただ拝んでいるだけではありませんか。大和の祈りとは何でしょ  
うか。大和拝作法がござります。全人類の人々を救うために、国家の繁栄のために神様が授けた祈り詞もあります。全て法則です。上の印は五に、下の印は六に結びます。はつきり爽やかに唱えて下さい。そうすることによって、宇宙の力が自分自身に頂けるのです。“神よ広く守り給え”というお願いです。祈りを届けなければなりません。言葉の力、響きです。開祖様は“言葉ほど尊いものはない”と説かれました。人の心に、ましてや神様に訴えなくてはならないのです。そうでなければただ拝んでいいだけなのです。

を積むのです。地球、宇宙の繁栄を願うのです。この様な徳の積み方は他にはありません。大和の祈りは感謝の祈りです。

十八頁に“感謝に明け暮れ奉謝の念に燃え”とございます。あなたは一日感謝に明け暮れていますかと、神様は問う訳です。皆さんはまだまだです。感謝に明け暮れてはおりません。感謝は言葉です。尊い言葉は忘れません。感謝は難しい。夫々の感謝を持つことです。それは自分自身でしか分かりません。“感謝しております。”と言う人ほど、実は全然しておりません。本当にみじみと感謝を分かるのは自分の心だけです。感謝は本当に大きな祈りです。大きな宇宙に包まれている私たち。だから当然、感謝するという気持ちが湧き起こらなければなりません。あなたたちの生命のお蔭で今日もう一度して元気で働ける。健康で一所懸命働きたいと思う人は、どれだけ有り難いか分かると思います。食べられるということはどれだけ豊かなことでしょう。世界の七割の人が貧困で劣悪な環境にいます。生きるだけで精一杯です。その様な世の中にあつて、私たち日本人は今こうして生かされています。ご先祖たちの御蔭です。怠けていたらこの様にはなりません。物凄い力を日本人は持っているのです。感謝に明け暮れると、何かが分かつてきます。私も昔の自分よりは、有り難いということが段々分かつて参りました。神様がこのような事を申されました。

“それは足りない、半分だ。お前が口にした生命がある。その生命がお前に感謝するように感じなかつたら駄目だ。使う道具の生命が、あなたに使われて私は幸せです。あなたのような立派な人に使われて私は幸せですと思われなくては駄目なのだ

です。食べるものに感謝、道具にも感謝、当たり前でしょう。それもなかなか難しかった。この壱千日間で段々と分かつて参りました。何かが足りないのは全て自分のせいなのです。大和の神様は厳しい神様です。あなたの生命に化けた生命。その生命があなたと一緒に世の為、人の為に尽くす。そうするとその生命は本望です。有り難いと思うのです。あなたの生命となつて、一緒に世の為人の為に尽くす幸せ。そう言わせて下さい。それが大和の信仰者です。正しく大和の信仰をすれば、当然徳を積みます。殊更ではありません。祈りと感謝と奉仕の生活をしっかりと行うだけです。今回の行では、殊に“感謝”というものを論されました。感謝は形で示します。その証が奉仕です。“一人が五人を導きますよう”と。導いた人をお世話して一緒に信仰を致します。それは人生の勉強です。生きるための勉強、根本教育です。私等はどう生きるかを勉強するのです。生きる智恵なのです。生活改善です。そのために綺麗になります。整理整頓清掃です。報告、連絡、相談、確認のその力を日常の生活でどう使うかなのです。信仰の力を生かして下さい。感謝の姿をどう表すのかなのです。一切を救うのは大和の感謝です。一切が繁榮する。弥栄の感謝です。神様にご先祖様にそして万物に感謝する。大変なことです。どうぞ皆さん、実践して下さい。私は本当にこの壱千日間、感謝ということを神様から大きく諭されました。意識です。意識は心です。宇宙意識・神様の意識です。私たちには私たち人間の意識が有ります。それをつなぐのです。それが大和の感謝です。汚れた所には大和の神様は参りません。だから感謝の心で清めなさいということです。感謝の心を持っては清まります。どうかそれを分かつて下さい。そうして本日も行に励んで下さい。感謝致します。